

# 土倉・堀口法(村瀬義益・ニュートン型の第一拡張 漸化式)から得られる平方根,立方根の冪乗の連分数表示

堀 口 俊 二

2013年6月

新潟産業大学経済学部紀要 第42号別刷

BULLETIN OF NIIGATA SANGYO UNIVERSITY  
FACULTY OF ECONOMICS

No.42 June 2013

# 土倉・堀口法(村瀬義益・ニュートン型の第一拡張漸化式)から得られる平方根,立方根の冪乗の連分数表示

Continued Fraction Presentations of the Powers of Square Root and Cubic Root by  
the Tsuchikura-Horiguchi's Method(the First Extension Recurrence Formula of  
Murase Yoshimasu-Newton's type)

堀口 俊二  
Shunji HORIGUCHI

**要旨** 実数  $a$  の  $p$  乗根を表す方程式

$$f(x)=x^p - a=0$$

を式変形し, これに土倉・堀口法を適用する. これより  $p$  乗根の冪乗の連分数表示を得る (§2 定理6). さらにこの連分数表示から平方根, 立方根の冪乗の連分数表示を与える (§2 定理7, 定理9). われわれは §1 の土倉・堀口法 (村瀬義益・ニュートン型の第一拡張漸化式) と連分数の定義から出発する.

## 1. 土倉・堀口法 (村瀬義益・ニュートン型の第一拡張漸化式) と連分数

定義1 実変数  $x$  の方程式  $f(x)=0$  の解 (根)  $a$  を近似する漸化式

$$x_{k+1}=x_k - \frac{f(x_k)}{f'(x_k)} \quad (1.1)$$

をニュートン法 (1669) あるいはニュートン・ラフソン法 (1690) という.

ニュートン法は現在コンピュータによる数値計算でもっともよく用いられている. 1673年に村瀬義益 (1630年頃-1700年頃, 佐渡→江戸・下総 (現在の千葉県) ) [3] は2次元の漸化式  $x_k^2$  を2種類導き, この数値計算を算盤で平方根を求めながら行った. これはニュートン (1642-1727) よりわずか4年後のことであり, 式 (1.1) として定式化された1690年より17年前である. 三大数学者の一人と言われるニュートンと同世代にこのような独創的な和算家が約350年前に日本にいたのである. われわれは村瀬の2次元の漸化式からニュートン法の拡張である次の定義2の土倉・堀口 (TH) 法を発見した. このことは日本の和算の独創性を示すものであり, 和算から現代数学の新しい式を発見した最初の論文であろう.

定義 2 (堀口 [1])  $q$  を 0 以外の実数定数とする. 実変数  $x$  の方程式  $f(x)=0$  の解 (根)  $\alpha$  の  $q$  乗  $\alpha^q$  を近似する漸化式

$$x_{k+1}^q = x_k^q - qx_k^{q-1} \frac{f(x_k)}{f'(x_k)} \quad (1.2)$$

を土倉・堀口 (7H) 法 (2009) あるいは村瀬義益・ニュートン型の第一拡張漸化式という. 特に  $q=1$  のときニュートン法になる.

例 3 (1)  $a$  を正の実数定数とする. 方程式  $f(x)=x^2-a=0$  の解 (根) は  $\pm\sqrt{a}$  である. この解を求める漸化式はニュートン法を使うと

$$\begin{aligned} x_{k+1} &= x_k - \frac{f(x_k)}{f'(x_k)} \\ &= x_k - \frac{x_k - a}{2x_k} \\ &= \frac{1}{2} \left( x_k + \frac{a}{x_k} \right) \end{aligned} \quad (1.3)$$

となる. これはギリシャ時代から知られた漸化式であり, 電卓で平方根を求めるプログラムとして利用されている.

(2)  $a$  を実数定数とする. 方程式  $f(x)=x^p-a=0$  は  $a$  の  $p$  乗根を表す. これにニュートン法を適用すると

$$\begin{aligned} x_{k+1} &= x_k - \frac{f(x_k)}{f'(x_k)} \\ &= x_k - \frac{x_k^p - a}{px_k^{p-1}} \\ &= \frac{1}{p} \left[ (p-1)x_k + \frac{a}{x_k^{p-1}} \right] \end{aligned} \quad (1.4)$$

となる.

定義 4 連分数とは, 分数の分母にさらに分数が含まれているような分数をいう. すなわち

$$a_0 + \frac{b_1}{a_1 + \frac{b_2}{a_2 + \frac{b_3}{a_3 + \dots}}} \quad (1.5)$$

のような形の分数である. 特に,  $b_1 = b_2 = b_3 = \dots = 1$  のような分子がすべて 1 である場合を正則連分数という.

例5 方程式  $x^2=a$  の解(平方根)を求めるために, 次のように式変形する.

$$x^2+x=x+a \quad (1.6)$$

$$x(x+1)=x+a$$

$$x = \frac{x+a}{x+1}$$

$$x = 1 + \frac{a-1}{x+1} \quad (1.7)$$

これより平方根を求める漸化式

$$x_{k+1} = 1 + \frac{a-1}{x_k+1} \quad (1.8)$$

を得る. ここで  $a=2$ ,  $x_0=1$  とおくと

$$x_1 = 1 + \frac{1}{2}$$

$$x_2 = 1 + \frac{1}{x_1+1} = 1 + \frac{1}{2 + \frac{1}{2}}$$

$$x_3 = 1 + \frac{1}{x_2+1} = \frac{1}{2 + \frac{1}{2 + \frac{1}{2}}}$$

$$x_4 = \dots$$

$$x_5 = \dots$$

となり, 正則無限連分数展開となる.

## 2. 土倉・堀口法(村瀬義益・ニュートン型の第一拡張漸化式)から得られる $p$ 乗根の冪乗の連分数表示

定理 6

$$g(x) = \frac{x^p - a}{x+1} = 0 \quad (p \neq 1) \quad (2.1)$$

に土倉・堀口法を行うことにより,  $a$  の  $p(\geq 2)$  乗根の  $q$  乗の連分数表示の漸化式

$$x_{k+1}^q = \left( 1 - \frac{q}{p-1} \right) x_k^q + q x_k^{q-1} \left( \frac{1}{(p-1)^2} - \frac{p}{(p-1)^2} \frac{1}{(p-1)x_k + p + \frac{a(p-1)^2}{\frac{x_k^{p-1} - a(p-1)x_k + a(-p+2)}{(x_k+1)^2}}} \right) \quad (2.2)$$

$$= \left( 1 - \frac{2q}{p-1} \right) x_k^q + qx_k^{q-1} \left( \frac{1}{p-1} x_k + \frac{1}{(p-1)^2} - \frac{p}{(p-1)^2} \frac{1}{(p-1)x_k + p + \frac{a(p-1)^2}{x_k^{p-1} - a(p-1)x_k + a(-p+2)}} \right) \quad (2.3)$$

を得る.

証明

$$g(x) = \frac{x^p - a}{x+1}$$

に土倉・堀口法

$$x_{k+1}^q = x_k^q - qx_k^{q-1} \frac{g(x_k)}{g'(x_k)} \quad (2.4)$$

を適用する.

$$\begin{aligned} \frac{g(x)}{g'(x)} &= \frac{\frac{x^p - a}{x+1}}{\frac{px^{p-1}(x+1) - (x^p - a)}{(x+1)^2}} \quad (2.5) \\ &= \frac{\frac{x^p - a}{x+1}}{(p-1)x^p + px^{p-1} + a} \\ &= \frac{x^{p+1} + x^p - ax - a}{(p-1)x^p + px^{p-1} + a} \end{aligned}$$

となる. ここで有理式の割算を行い, 式変形する.

$$\begin{aligned} & \frac{1}{p-1} x - \frac{1}{(p-1)^2} + \frac{\frac{p}{(p-1)^2} x^{p-1} - \frac{ap}{p-1} x + \frac{ap(-p+2)}{(p-1)^2}}{(p-1)x^p + px^{p-1} + a} \quad (2.6) \\ &= \frac{1}{p-1} x - \frac{1}{(p-1)^2} + \frac{1}{\frac{(p-1)x^p + px^{p-1} + a}{\frac{p}{(p-1)^2} x^{p-1} - \frac{ap}{p-1} x + \frac{ap(-p+2)}{(p-1)^2}}} \\ &= \frac{1}{p-1} x - \frac{1}{(p-1)^2} + \frac{1}{\frac{(p-1)x^p + px^{p-1} + a}{\frac{p}{(p-1)^2} (x^{p-1} - a(p-1)x + a(-p+2))}} \end{aligned}$$

となる。さらに分母の有理式の割算を行い、式変形する。

$$\begin{aligned}
 & \frac{(p-1)x^p + px^{p-1} + a}{\frac{p}{(p-1)^2}(x^{p-1} - a(p-1)x + a(-p+2))} \quad (2.7) \\
 &= \frac{(p-1)^2}{p} \left[ (p-1)x + p + \frac{a(p-1)^2 x^2 + 2a(p-1)^2 x + a(p-1)^2}{x^{p-1} - a(p-1)x + a(-p+2)} \right] \\
 &= \frac{(p-1)^2}{p} \left[ (p-1)x + p + \frac{1}{\frac{x^{p-1} - a(p-1)x + a(-p+2)}{a(p-1)^2 x^2 + 2a(p-1)^2 x + a(p-1)^2}} \right] \\
 &= \frac{(p-1)^2}{p} \left[ (p-1)x + p + \frac{a(p-1)^2}{\frac{x^{p-1} - a(p-1)x + a(-p+2)}{(x+1)^2}} \right]
 \end{aligned}$$

となる。したがって

$$\begin{aligned}
 \frac{g(x)}{g'(x)} &= \frac{1}{p-1}x - \frac{1}{(p-1)^2} + \frac{1}{\frac{(p-1)x^p + px^{p-1} + a}{\frac{p}{(p-1)^2}(x^{p-1} - a(p-1)x + a(-p+2))}} \quad (2.8) \\
 &= \frac{1}{p-1}x - \frac{1}{(p-1)^2} + \frac{1}{\frac{(p-1)^2}{p} \left[ (p-1)x + p + \frac{a(p-1)^2}{\frac{x^{p-1} - a(p-1)x + a(-p+2)}{(x+1)^2}} \right]}
 \end{aligned}$$

となる。したがって

$$\begin{aligned}
 x_{k+1}^q &= x_k^q - qx_k^{q-1} \frac{g(x_k)}{g'(x_k)} \\
 &= x_k^q - qx_k^{q-1} \left[ \frac{1}{p-1}x_k - \frac{1}{(p-1)^2} + \frac{1}{\frac{(p-1)^2}{p} \left[ (p-1)x_k + p + \frac{a(p-1)^2}{\frac{x_k^{p-1} - a(p-1)x_k + a(-p+2)}{(x_k+1)^2}} \right]} \right] \quad (2.9)
 \end{aligned}$$

となる. これを纏めると求める漸化式 (2.2) を得る. 式 (2.3) は式 (2.2) から容易に導かれる  $\square$

$a$  を正の実数定数とする. 定理 6 の式 (2.1) において  $p=2$  とすると

$$g(x) = \frac{x^2 - a}{x+1} = 0 \quad (2.10)$$

となり, これは  $a$  の平方根を表す方程式である. このとき式 (2.2) から

定理 7  $a$  の平方根の  $q$  乗の連分数表示の漸化式

$$x_{k+1}^q = (1-q)x_k^q + qx_k^{q-1} \left( 1 + \frac{a-1}{1 + \frac{1}{2} \left( x_k + \frac{a}{x_k} \right)} \right) \quad (2.11)$$

を得る.

証明 定理 6 の式 (2.2) で  $p=2$  とすると

$$x_{k+1}^q = (1-q)x_k^q + qx_k^{q-1} \left( 1 - \frac{2}{x_k + 2 + \frac{a}{(1-a)x_k}} \right) \quad (2.12)$$

を得る. 式 (2.12) から式 (2.11) を導く. 式 (2.12) の有理式の部分は

$$\begin{aligned} & \frac{2}{-(x_k + 2) + \frac{a}{(1-a)x_k}} \\ & \frac{2}{-(x_k + 2) + \frac{a(x_k + 1)^2}{(1-a)x_k}} \end{aligned} \quad (2.13)$$

となるので, これを式変形すると

$$\frac{a-1}{1 + \frac{1}{2} \left( x_k + \frac{a}{x_k} \right)} \quad (2.14)$$

となる. これより求める式が得られる.  $\square$

式 (2.11) の分母に例 3 のニュートン法による漸化式 (1.3) があることに注意せよ.

系 8 式 (2.11) で  $q=1$  のとき  $a$  の平方根を表し

$$x_{k+1} = 1 + \frac{a-1}{1 + \frac{1}{2} \left( x_k + \frac{a}{x_k} \right)} \quad (2.15)$$

となる. したがって  $q$  乗の漸化式 (2.11) は  $a$  の平方根の漸化式 (2.15) を含んだ式である.

$a$  を実数定数とする. 定理 6 で式 (2.1) において  $p=3$  とすると

$$g(x) = \frac{x^3 - a}{x+1} = 0 \quad (2.16)$$

となり, これは  $a$  の立方根を表す方程式である. このとき式 (2.3) から

定理 9 実数  $a$  の立方根の  $q$  乗の連分数表示の漸化式

$$x_{k+1}^q = (1-q)x_k^q + qx_k^{q-1} \left( \frac{\frac{1}{2}x_k + \frac{1}{4} - \frac{1}{\frac{8}{3}x_k + 4 + \frac{16a}{3} + \frac{1}{\frac{3}{32a(a+1)} \left( x_k - 2 \left( a + \frac{1}{4} \right) + \frac{1}{4} \frac{1}{x_k + \frac{1}{2}} \right)}}}{1}} \right) \quad (2.17)$$

を得る.

証明 式 (2.3) で  $p=3$  とすると次式を得る.

$$x_{k+1}^q = (1-q)x_k^q + qx_k^{q-1} \left( \frac{\frac{1}{2}x_k + \frac{1}{4} - \frac{3}{4} \frac{1}{2x_k + 3 + \frac{4a}{\frac{x_k^2 - 2ax_k - a}{(x_k + 1)^2}}}}{1}} \right) \quad (2.18)$$

式 (2.18) から式 (2.17) を導く. 式 (2.18) の分母にある有理式は



$$\begin{aligned} & \frac{3}{4} \frac{1}{2x_k + 3 + \frac{4a}{\frac{x_k^2 - 2ax_k - a}{x_k^2 + 2x_k + 1}}} \\ &= \frac{1}{\frac{8}{3}x_k + 4 + \frac{16a}{3} \frac{x_k^2 + 2x_k + 1}{x_k^2 - 2ax_k - a}} \end{aligned} \quad (2.19)$$

となり, 式(2.19)の分母にある有理式は

$$\begin{aligned} & \frac{x_k^2 + 2x_k + 1}{x_k^2 - 2ax_k - a} \\ &= 1 + \frac{(a+1)(2x_k+1)}{x_k^2 - 2ax_k - a} \end{aligned} \quad (2.20)$$

となるから

$$\begin{aligned} (2.19) &= \frac{1}{\frac{8}{3}x_k + 4 + \frac{16a}{3} \left( 1 + \frac{(a+1)(2x_k+1)}{x_k^2 - 2ax_k - a} \right)} \\ &= \frac{1}{\frac{8}{3}x_k + 4 + \frac{16a}{3} + \frac{16a(a+1)}{3} \frac{2x_k+1}{x_k^2 - 2ax_k - a}} \\ &= \frac{1}{\frac{8}{3}x_k + 4 + \frac{16a}{3} + \frac{1}{\frac{16a(a+1)}{3} \frac{2x_k+1}{x_k^2 - 2ax_k - a}}} \end{aligned} \quad (2.21)$$

となる. ここで式(2.21)の分母にある有理式は

$$\begin{aligned} & \frac{x_k^2 - 2ax_k - a}{2x_k + 1} \\ &= \frac{1}{2}x_k - \left( a + \frac{1}{4} \right) + \frac{\frac{1}{4}}{2x_k + 1} \end{aligned} \quad (2.22)$$

となるから

$$(2.19) = \frac{1}{\frac{8}{3}x_k + 4 + \frac{16a}{3} + \frac{1}{\frac{3}{16a(a+1)} \left( \frac{1}{2}x_k - \left( a + \frac{1}{4} \right) + \frac{1}{2x_k + 1} \right)}} \quad (2.23)$$

となる.

□

系 10 式(2.17)は  $q=1$  のとき実数  $a$  の立方根を表し

$$x_{k+1} = \frac{1}{2}x_k + \frac{1}{4} - \frac{1}{\frac{8}{3}x_k + 4 + \frac{16a}{3} + \frac{1}{\frac{3}{32a(a+1)} \left( x_k - 2 \left( a + \frac{1}{4} \right) + \frac{1}{4} \frac{1}{x_k + \frac{1}{2}} \right)}} \quad (2.24)$$

となる. したがって  $q$  乗の漸化式 (2.17) は  $a$  の立方根の漸化式 (2.24) を含んだ式である.

#### 参考文献

- [1] 堀口俊二：村瀬義益とニュートンの漸化式より得られる一般漸化式，数理解析研究所講究録 1739, 2011.4, pp. 234-244., 京都大学数理解析研究所
- [2] 堀口俊二, 鈴木武雄：ニュートン法から得られる平方根, 立方根, 4乗根の連分数表示, 2011.10 日本数学会秋季統合分科会, 代数学分科会講演アブストラクト, pp. 125-126.
- [3] 村瀬義益著・西田知己校注：『算法勿憚改』(1673), 研成社, 1993
- [4] 鈴木武雄：『和算の成立』, 恒星社厚生閣, 2007
- [5] 永坂秀子：『計算機と数値解析』, 朝倉書店, 1980
- [6] 藤野清次：『数値計算の基礎』, サイエンス社, 1998

**Continued Fraction Presentations of the  
Powers of Square Root and Cubic Root by  
the Tsuchikura-Horiguchi's Method  
(the First Extension Recurrence Formula of  
Murase Yoshimasu-Newton's type)**

Shunji HORIGUCHI

2013年6月

新潟産業大学経済学部紀要 第42号別刷

BULLETIN OF NIIGATA SANGYO UNIVERSITY  
FACULTY OF ECONOMICS

No.42 June 2013